

農薬不使用の殺菌方法

～令和4年産水稻種子温湯消毒実施～

常盤基幹グリーンセンターでは、3月20日から29日、水稻種子温湯消毒の受託作業を行いました。令和4年は生産者208人が申込み、つがるロマンや青天の霹靂などの種子約32トンを1日に約4トンの消毒作業をしました。

温湯消毒は、農薬を使わずに温湯で殺菌する方法。苗立枯細菌病やもみ枯細菌病、いもち病などに対し農薬を使った場合と同等、またはそれ以上の防除効果が期待できます。

消毒作業は、敷地内にある旧常盤農産物加工センターでJA職員や作業員ら8人が手作業で行い、種子を入れた袋を60度の温湯に約10分間浸した後、冷水で冷やす作業を繰り返し行なった。発芽率の低下防止や、病害の防除効果を発揮させるため、浸漬温度と処理時間の管理を徹底して作業を行いました。

作業を行なった同グリーンセンターの古川広之営農指導係長は「温湯消毒は薬剤を使用しないため環境と人に優しく、芽揃いがとても良い。持続可能な開発目標（SDGs）にもつながる取り組みなので、より多くの生産者に申し込んでほしい」と話しました。



温湯から水稻種子を引き上げる職員ら

生産者へ良質な苗を

～水稻種子播種作業開始～

田舎館基幹グリーンセンターは、4月4日から水稻種子の播種作業を行いました。同地区では、春作業が忙しい生産者にとって播種作業の人材確保などが難しいことから、約50年前からJAが播種作業を行い提供しています。

JA職員や作業員らが播種作業をし、育苗箱でまっしぐら約1万7000枚、青天の霹靂約4000枚を播種。今年は61件の申込があり、播種後は30度に設定した育苗器の中で約60時間加熱しました。

9日からは水稻苗の配布を開始。数ミリ程度出芽した状態の苗を、JA職員が生産者のトラックに積み込みました。配布作業は4月21日まで続きます。

生産者は「水稻苗は毎年JAにお願いしている。苗の準備にはかなりの労力がかかるので、配布はとても助かっている」と話しました。



播種作業をする作業員



積み込み作業をする職員